

甲府 キッズU-10地域リーグ8 試合実施のガイドライン

山梨県サッカー協会・甲府4種委員会

目的・実施要項・共有	U-10地域リーグの目的	
	U-10年代及びU-9以下の選手における試合機会の確保。 8人制サッカーによる年間を通じたリーグ戦を実施することにより、個の育成及びサッカーファミリーの拡大につなげていくことにより、4種年代のサッカー環境をより良いものとする。	
	実施要項	
	① 名称	「キッズU-10・地域リーグ8」
	② 主催	甲府4種委員会
	③ 主管	甲府4種委員会・事業運営部
	④ 期間	平成24年4月～平成25年2月リーグ戦デーを設定し年間を通じてリーグ戦を行う。
	⑤ エントリー資格	2012年度4種登録チーム及び甲府4種委員会が認めるチーム。 参加チームはエントリー表を提出する。(書式)
	⑥ 複数エントリー	可能とする。4年生以下(3年生以下のチームも認める)
	⑦ 大会規則	山梨U-12リーグ実施のガイドラインに準ずるが、年代の特性を考慮し一部U-10地域リーグ規則を設ける。
⑧ グループ編成	自己申告を基本とするレベル設定を行い、3段階のグループリーグを編成する。 (各グループチーム数は上位、中位、下位グループとも10チームを基本とするが、参加チーム数により調整する。)	
	⑨ 試合方法	レベル分けしたグループによる2シーズン制のリーグ戦を行う。 また、前期を4月～8月とし、後期9月～翌年2月とする。
⑩ 会場確保	各グループ間の取り組みや、指導者ならびに選手の交流を計ることを目的とし、各グループの1位・2位チームによるU-10交流ゲームをグループ日程終了後実施する。 予め甲府4種委員会が可能な限り会場確保を行うことでスムーズな運営が実施されるように配慮します。	
8人制サッカー		
この年代に応じたサッカーとして次のアプローチがポイントになります。 ○ボールタッチ数が多い ⇒ つねに関わることで技術の向上につながります。 ○プレー回数が増える ⇒ 判断回数が増え成功と失敗を繰り返し成長します。 ○11人制より観るものが減る ⇒ 判断がクリアーになり、理解しやすくなります。 ○どのポジションでも攻守に関わり続ける ⇒ サッカーの基本を理解していきます ○ゴール前の攻防が増える ⇒ 楽しい場面、わくわくします。		
試合の	8人制サッカールール	
	1 競技のフィールド	① 大きさ タッチライン(60～68) × ゴールライン(40～50) * 各グループにおいて協議の上会場に応じたピッチ設営を行ってよいものとするが、60×40を推奨ピッチとする。

実施	② エリア等 <ul style="list-style-type: none"> ・ペナルティーエリア = 12m ・ペナルティーマーク = 8m ・ペナルティアーケ(半径) = 7m ・ゴールエリア = 4m ・センターサークル(半径) = 7m
	③ ゴール 少年用ゴール:内幅(5m) × 内高さ(2.15m) を推奨する。 ④ 交代ゾーン ベンチ側のタッチラインのハーフウェーに6mの交代ゾーンを設ける ・ハーフウェーラインを挟んで3mずつ。
2	ボール ・少年用4号球を基本とする。
3	競技者の数 <ul style="list-style-type: none"> ① 8人(うち1人はゴールキーパー)を基本とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・チームは7名のフィールドプレーヤーと1人のゴールキーパーからなる。 ・試合開始の成立は、キックオフ時に8人がそろっていることが必要。 ただし、試合中に欠員が生じた場合は、7名をもって成立する。6名以下となった場合にはその試合は不戦敗の扱いとなります。 ② 交代できる要員の数は制限しません。 <ul style="list-style-type: none"> ・1試合中の全員出場を規則とはしませんが、自由な交代を活用して多くの選手にプレー機会を与えるよう心がけましょう。 ③ メンバー票・選手証について <ul style="list-style-type: none"> メンバー表の提出を必要とせず、選手証の照合も行いません。 ④ 交代の手続き <ul style="list-style-type: none"> (1) 交代して退く競技者は、交代ゾーンから外に出ます。 <ul style="list-style-type: none"> ・怪我をした場合はこの限りではありません。 (2) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となります。 (3) 交代については、補助審判の用具確認を得てから、インプレーアウトオブプレーにかかわらず行うことができます。 <ul style="list-style-type: none"> ただし、ゴールキーパーにかかわる交代は、事前に主審に告げアウトオブプレー中に行います。 (4) 交代要員はビブスを着用し、交代手続きは、ビブスの受け渡しをもって行います。
4	競技者の用具(基本的な規定はこれまでと変わりません。) <ul style="list-style-type: none"> ① 両チーム異なる色彩のユニフォーム(シャツ)を着用する。 ② 両チームが予め着用する色を話し合いで決めましょう。最終的には主審の判断により着用する色彩を決める。 ③ 異なるユニホームが用意できない場合はビブスでの代用を認めます。 ④ ゴールキーパーのユニフォームの色彩は、両チーム同じでもよい。 ⑤ すね当てを着用する。
試合の実施	

- ⑥ 競技者の用具はその競技者のみならず相手競技者にも安全なものでなければならず、試合開始前に競技者、交代要員の用具が主審、または補助審判によって検査されます。
- ⑦ 眼鏡については、主審が安全であると判断したものは着用できます。

5 主審

- ① 試合は、1人の審判によって運営される。(当該チームの試合審判を前後半交代で行いましょう)
- 選手ばかりでなく指導者や保護者も含め、互いにリスペクトしてゲームを成り立たせていく。
審判から見える見えないにかかわらず、選手はフェアプレーの精神を尊重して全力でプレーする。自己申告に努め、ゲームを協力してスムーズに進めるよう務めましょう。審判にとっては、ゲームを読み全体をコントロールしていくことを心がけることで審判能力の向上につながります。
- ② 主審は、フェアプレー精神あふれる行動やリスペクトのある行動をとった競技者に積極的にグリーンカードを示しましょう。
・グリーンカードは、試合開始前から試合中、試合終了後であっても、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず示すことができます。

6 補助審判

- ① 試合には、補助審判1名が指名される。(当該チームの試合審判を前後半交代で行いましょう)
- ② 補助審判の任務は次のとおりとする。
- (1) 主審によって要請された試合前、中、後の管理上の任務を援助する。
 - (2) ボールの交換を管理する。
 - (3) 交代選手の用具を確認し、手続きが円滑に行われるよう、主審を援助する。
 - (4) チーム、競技者が試合中にフェアプレー精神あふれる行動やリスペクトある行動をとっていたのを見た場合、主審に知らせ、主審がグリーンカードを示す援助しましょう。

7 試合時間

- ① 前、後半それぞれ15分とする。
- ② ハーフタイムは、5分とする。

8 一日の試合数

- ・本リーグにおける1チームの試合数は、1日2試合を限度とする
- ・MTMを意識し、課題の抽出・改善や修正への取り組みを行うが大切であるということ共有しましょう。

9 プレーの開始及び再開

- ・キックオフから直接相手のゴールに入った場合は、相手にゴールキックが与えられます。

10 ファウルと不正行為

試合の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技者が退場を命じられた場合は、その競技チームは交代要員の中から競技者を補充することができます。
	<p>11 フリーキック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールがインプレーになるまで相手競技者は7m以上ボールから離れなければなりません。
	<p>12 スローイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技者は、スローインが行われる地点から2m以上ボールから離れなければなりません。
	<p>13 コーナーキック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボールがインプレーになるまで相手競技者はコーナーアークから7m以上離れなければなりません。
リーグの運営	<p>グループ運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループリーダー・サブリーダーを選任しましょう 連絡網を作成しグループリーダーを中心に全チームの協力により運営をしましょう。
	<p>帯同する指導者、チーム役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本リーグ戦の試合に帯同する指導者、チーム役員は、チーム引率者(監督者)、帯同審判員であること。 <ol style="list-style-type: none"> ① チーム引率者(監督者)とは、当該チームを当該試合日に引率する責任者であって選手の体調、行動、並びにチーム関係者の行動等について管理監督する者であって、本リーグの当該試合日に際し、チームを総括し、試合の運営に協力するとともに、リーグ運営に協力する。 ② 帯同審判は、4級審判以上の資格を有し、グループリーグ実行委員会の指定する試合の主審または補助審判を務める。 ③ 帯同審判は、主審または補助審判を務める試合が自己チームの試合の実施の支障とならない場合のみチーム責任者(監督者)が兼務することができる。
	<p>指導者の資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数エントリーを行う際はそれぞれのチームが独立したチームとして扱われ、それぞれのグループ運営に参加することが必要です。複数エントリーをする場合は、それぞれにチーム責任者をおき、グループ運営に対し協力、責任を負う体制を整えておきましょう。 ・ 本リーグへの参加にあたっては、必ず1名以上のチーム指導者が必要です。必ずしもJFA指導者資格D級以上の取得者でなくても良いが、選手ならびに指導者育成の観点からも有資格指導者が望ましい。
	<p>一人審判法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JFA「8人制サッカールールと審判法」8ページ～13ページを参考にするとともに、審判部の見解「8人制審判法について」追加事項を理解し、審判だけでなく、選手、チーム役員、保護者の協力のもとにスムーズな試合運営に取り組みましょう。

保護者の皆さんと共に

これまでの11人制でも、過度なコーチングの弊害や、選手自身の判断に基づくプレーの重要性が論じられてきました。結局、それらを実現し、将来の選手の成長、ひいては日本サッカーの技術向上を導き出すには、選手自身が多くの体験から判断し、行動する機会を提供するための環境づくりが必要であるということなのです。

その取り組みへのアクションが、8人制の導入であり、リーグ戦の実施なのです。

8人制のサッカーは、単に11人制のスケールを小さくしたものではなく、さまざまなポジションで攻守に関わる機会を多くする中で、よりサッカー全体を体験の中から学習していこうとするものです。そこには、ポジションを固定的にとらえるのではなく、さまざまなポジションを経験し、どのポジションでも攻守に関わることができるようなサッカーそのものを学ばせる環境が必要です。

そこで、保護者の皆さんにもサッカーファミリーとして、指導者やリーグ運営者ととも少年サッカーの環境づくりにご協力をいただきたいのです。

- ・リーグの運営にご協力ください。チーム役員や指導者だけでは困難です。

リーグ運営は、当番チームや会場チームだけでなく全てのチームが運営に関わります。

会場の設営や駐車場確保など様々な課題への対応が必要です。

- ・試合運営にご協力ください。選手の判断を引き出す試合を作りましょう。

試合は、1人審判法で実施されます。審判は試合の進行を促進することが役割ですから、機械のように判定をすることを目的としていません。そのことを理解したうえで、選手自身のプレーの頑張りを観ることを楽しんでください。判定に左右されることなく、頑張る子供の姿、ひたむきな姿が最も大切なことです。

- ・お子さんの成長には保護者の方の応援や励ましがが必要です。ただ放任、自由にさせるのではなく、選手の主体性を引き出し、自立した人間に成長するためにもお子さんの人格を尊重するとともに、応援や励ましの言葉をかけてあげてください。